

青銅合金 鑄造用地金

JIS H2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安曇郡安濃町字日暮2222-2

電話 059-268-2206(代)

FAX 059-268-1949

販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部 大阪府中央区博労町3-6-7 三都ビル2階

電話 06-6244-3115(代)

FAX 06-6244-3116

東大阪倉庫

東大阪市長堂3-11-20

電話 06-6782-3115(代)

FAX 06-6782-3143

63S・D粉 銅・真鍮粉

(株)アイコー

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市洪川町2-9-27

本社(06)4307-0600

三重県伊賀市西之沢162

伊賀アルミセンター(0595)45-6510

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7

電話(06)6932-5443 代表

購読料 半力年44,100円(前納) 3カ月22,050円

輸入はスクラップが増加

橋本健一郎氏リポート②

アルミ二次合金が八七%増加

【概況】 八月前半は七月の米雇用統計で失業率が七・四%と予測より〇・二ポイント下がったことから、金融緩和と縮小時期が早まるのでは?などのマイナスマテリアルはあったものの、中国国家统计局発表のPMIが五四・一と上昇(HSBCのPMIは変わらず五一・三)したことや中国税関総署発表の貿易統計で、輸出が五・一%増、輸入が一〇・九%増と予測より良かったことを好感し、LMEアルミ相場は一、八八八ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約一〇〇ドル上昇しての前半締めとなった。

後半は米、英の第2四半期GDPが共に上方修正されたことや、独PMIが五二と予測を上回ったこと、更に独ifo指数も一〇七・五と予測を上回るなどプラス材料もあつたが、八月の米耐久財受注が七・三%減と一年ぶりの減収率まで落ち込んだ事、米国主導のシリアへの軍事介入などの地政学的リスクの台頭から急落。

九月三日現在、LMEアルミ相場(現物後場)一、七七〇ドルと前半締めから七〇ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・五%減の九一万〇、一一四台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比六・四%減の二二万七、四一一台。

(二面へ続く)

自動車向け 高級鋼板 生産能力を三割増強

宝鋼新日鉄自動車鋼板

新日鉄住金は五日、中国で自動車向け高級鋼板の生産能力を増強すると発表した。中国鉄鋼大手の宝山鋼鉄(上海市)と折半出資する合弁会社、宝鋼新日鉄自動車鋼板の上海工場で、自動車用鋼板にさび止めする工程の生産ラインを増設する。中国での自動車販売拡大をにらみ、日系自動車メーカーなどへの供給能力を高める。

このほど、上海市政府から生産ライン増設の批准を得た。新ラインの生産能力は年四二万トンで、全体の能力は三四%増強される。二〇一五年後半に稼働する予定。投資額は約一億元(約一七〇億円)。

新ラインでは、日系自動車メーカーからの現地生産ニーズに応え、軽量で従来品より強度の高い超高張力鋼板(超ハイテン)も生産するといふ。

アルミ圧延品、二次合金と生産増

(一面より続く)

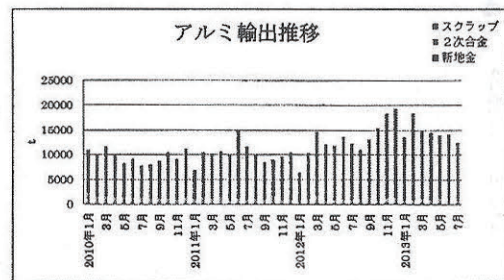
◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二二・二%増の八万四、四五九戸であった。

◆貿易指標

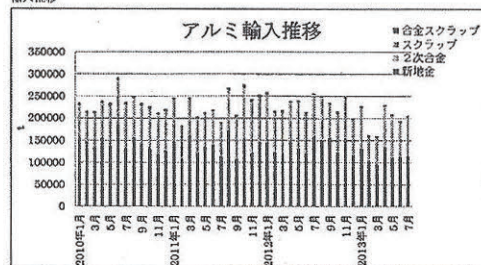
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一七・七%減の一三五t、二次合金が八七%増の一、一八二t、スクラップが三・三%減の一、一四二t。

	5月	6月	7月
輸出			
新地金	129 t	30 t	135 t
前年比	-11.6%	-74.1%	-17.7%
二次合金	1037 t	1010 t	1182 t
前年比	+44.8%	+20.7%	+87%
スクラップ	12786 t	13079 t	11142 t
前年比	+15.5%	+2.7%	-3.3%
輸出推移			



出典 財務省貿易統計

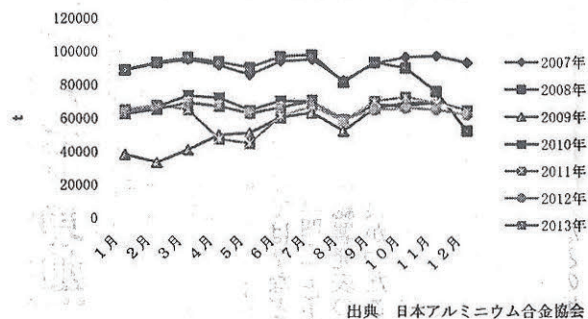
	5月	6月	7月
輸入			
新地金	11万1401 t	11万2736 t	11万4718 t
前年比	-15.5%	-6%	-28%
二次合金	9万3692 t	7万7278 t	8万6981 t
前年比	-10.9%	-15.1%	-9.3%
スクラップ	715 t	489 t	804 t
前年比	+0.7%	-28.8%	+62.1%
合金スクラップ	3529 t	3273 t	4082 t
前年比	-4.1%	+15.7%	+51.7%
輸入推移			



出典 財務省貿易統計

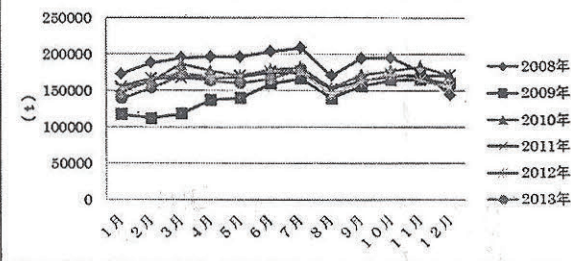
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・六%増の七万一、五五四tであった。(六面へ続く)

アルミ2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム合金協会

アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一・八%増の一七万九、〇六四t。

アルミの住宅、自動車、輸出の動向が焦点

国内需給
LME
相場 米量的緩和と縮小時期などが左右か

(二面より続く)

■見通し

八月は FOMC 議事録公開に伴う米国金融緩和と縮小懸念と、米国主導のシリアへの軍事介入に一喜一憂した月となった。

F RB の要人が縮小時期の必要性についてコメントする中で二十一日の FOMC 議事録発表への警戒感や、米国のシリアへの軍事介入が始まった際の地政学リスクへの警戒感から、自動車生産は前年比一・五%減の一カ月連続マイナス。国内向け八%減、輸出向け生産一%減と共にマイナス。ただし減少幅は縮小。販売の方は三カ月ぶりに一桁悪化に留まり前年比六・四%減。乗用車七・九%減、貨物四・一%増、バス二・二%増。

新設住宅着工戸数は先月に続き一一カ月連続増加、前年比一二%増(季節調整済み前月比〇・一%減)の八万四、四五九戸。今月も堅調な住宅関連。持家一一%増、貸家一九%増と大幅増。ここ最近の消費マインドの改善から。消費税 住宅減税その他の政策の動向に注目。

自動車関連のアルミ二次合金生産は前年比一・六%増と二カ月ぶりプラス。国内自動車生産の回復基調から。

圧延・押出品生産数は前年比一・八%増、九カ月ぶりプラス。

圧延に関して、缶材は一・六%増。七月のビール系飲料の出荷は三・三%増だったことから。自動車向けは一・五%減。ただしマイナス幅は前月の一〇・五%減から大幅縮小。

輸出は四カ月連続マイナスの三・八%減。中国への輸出が二七・二%減だったことから。ただし減少幅は縮小。

アルミの輸出は新地金が前年比一七・七%減の一三五t、二次合金が八七%増の一、一八二t、スクラップが三・三%減の一、一四二t。

内需回復に伴い用途が多い新地金は減少。二次合金は、大幅な円安を背景に輸出増との見解。

スクラップの内需の玉不足から減少。

輸入は新地金が前年比二八%減の一、一万四、七一八t、二次合金は九・三%減の八万

五、九五一t、スクラップは六二・一%増の八〇四t、合金スクラップは五一・七%増の四、〇八二t。

前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、スクラップは国内自動車生産回復基調から上昇との見解。

【アルミ需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一二%増と一一カ月連続増加、持家一一%増、貸家一九%増と好調。待望の自動車は生産が一一カ月連続前年割れが続いたが、一・五%減と二桁減少から大幅縮小。八月の国内販売台数も六・四%減と先月の半分まで縮小幅が減少。また中国景気後退懸念もここ最近の経済指標をみれば収まってきており、九月も好調が続けば、住宅、自動車、輸出の三本柱が本格回復する可能性もあり、原料発生不足に原料輸出が追い打ちをかけ、今後ますます供給不足が拡大する可能性が高い。

【LME 価格に関して】

今月は米国のシリアへの軍事介入と金融緩和の縮小時期に左右される。

全体としては米国、中国、欧州、日本の経済指標が比較的安定していることから、以前から噂されていた九月開始が行われる可能性が高いのではないかと。

シリアへの軍事介入は予測することは不可能だが、いずれにせよその問題が台頭している限り、産業用金属であるアルミに関しては軍事介入は明らかにマイナス材料。

それらを踏まえた価格、上値は前記がどちらも行われなかった場合、八月後半高値付近の一、八七〇ドルを予測。

下値は米国の金融緩和と縮小開始とシリアへの軍事介入が共に行われれば、大幅下落する可能性が高く、八月最安値のもう一段安の一、七〇〇ドル割れを予測。

スクラップ価格については条件によって乱降下する可能性が高い。前記条件が二つとも行われた場合、失望感からマイナス一〇円程度まで下落する。ただ二つとも行われなかった場合は住宅、自動車、輸出の回復からの需給ひっ迫から一〇円上昇するとの予測。